第2節　英文の作り方

① まず最初に主語（～は、～が）を書く。文の最初は大文字。

② 次に動詞を書く。動詞は日本語の文末にある。英文では、be動詞と一般動詞の２種類の動詞があるので、区別すること。

～　be動詞と一般動詞の区別の仕方　～
1.（です、である、ある、いる、存在する、生きる、~になる）と訳せばbe動詞、それ以外はすべて一般動詞。
2.動作(~する。たいていは動くもの)を意味するものは一般動詞、状態(です。動かないもの)はbe動詞

～　be動詞の使い方　～	
主語（～は、～が）が	I（私は）　の時は am（アム）
	You（君は、君たちは）または複数の時は are（アー）
	それ以外は is（イズ）

③ 残ったものを書いて、文の終わりには .（ピリオド）をつける。

④ 文章の中に数えられる名詞がある場合、

その名詞が　１つの時　→　その名詞の前に a つける。

複数の時　→　名詞の語尾に s をつける。

⑤ 数えられる名詞が１つの時には、aをつける。ただし、その名詞が母音（ア・イ・ウ・エ・オ）で始まっている時には、a ではなく、an をつける。

⑥ 数えられる名詞が１つの時には、aをつける。ただし、その名詞のすぐ前に、 this、that、所有格があったら、a、an、theをつけてはならない。

⑦ 名詞が2度目でその名詞の前に所有格がある場合、所有格＋名詞の2語は独立所有格（所有代名詞）1語になる。

(例)これは本です。　This① is② a④ book .③

(例)あれらは車です。　Those① are② cars .③④

(例)私は本を持っています。　I① have② a④ book .③

(例)あなたは生徒です。

(例)これらは私たちの猫です。

(例)彼らはリンゴを食べます。

(例)あれはリンゴです。　That① is② an⑤ apple .③

(例)この犬はかわいいです。　⑥This dog① is② cute .③

(例)これは君の車です。　This① is② ⑥your car .③

(例)あなたは私の生徒です。

(例)あの犬は彼の犬です。

That dog is his dog.

名詞1　所有格 ＋ 名詞2

↓

That dog is his.

独立所有格

(例)この本は彼女の本です。

(例)あれらの犬は私たちの犬です。

第3節　be動詞の疑問文・否定文の作り方

Ⅰ　be動詞の疑問文の作り方と答え方

be動詞を用いた文を疑問文にするには、be動詞を主語の前に出し、文末に？をつける。

～　答え方　～

Yes,人称代名詞＋be動詞.　　はいそうです。

No,人称代名詞＋be動詞＋not.　　いいえ違います。

疑問文の主語が

男が一人の時は　he

女が一人の時は　she

物が一つの時は　it

人でも物でも複数の時は they

Youで聞かれたら　I か We で答える。/ I か We で聞かれたら　Youで答える。

(例)これは本です。　　This　is　a　book.

これは本ですか　　Is　this　a　book ？　　はい、そうです。Yes,　it　is.

疑問文の主語は「これは」　→　「ものが１つ」　→　it

(例)あなたの父は､英語の先生です。　　Your　father　is　an　English　teacher.

あなたの父は､英語の先生ですか。　　Is　your　father　an　English　teacher ？

いいえ､ちがいます。　　No,　he　is　not.

疑問文の主語は「あなたの父」→　「男が1人」　→　he

(例)あれはリンゴですか　　はい、そうです。

(例)私の猫は小さいですか　　いいえ、違います。

(例)私は女の子ですか　　はい、そうです。

Ⅱ　be動詞の否定文の作り方

be動詞を用いた文を否定文にするには、<u>be動詞の直後にnot</u>をつける。

(例)これは本です。

This　is　a　book.

↓

This　is　not　a　book.

(例)これは本ではありません。

This　is　not　a　book.

(例)この犬は大きくないです。

This　dog　is　not　big.

(例)あれらはリンゴではありません。

(例)彼は先生ではありません。

(例)私の猫は小さくありません。